

「ゆるり短歌会」第28回 令和元年8月9日

- ① 亥の歳を六度廻る黒髪ろくたびめぐるの乙女いつしら白髪となり
- ② 新人のアナウンサーの声うらがえる我も遠き日にそんなことありぬ
- ③ なんとまあ北海道は広いことバスに二時間麦畑続く
- ④ 夫と吾の北海道の旅ぶじ終わり空港で買ふ白い恋人
- ⑤ 梅雨明けとまだ聞かねども蝉たちは朝日の中でかちどきあげる
- ⑥ わが夫は大工仕事に打ち込みて一軒の家請負いており
- ⑦ 仙台の旅寝をいやす老舗宿友と通ひしはひと昔前
- ⑧ 孫たちのお盆帰省に案ずるは刻々変わる台風進路
- ⑨ 青島に波はザザーッと寄せて来て蟹を誘いざなひ吾をいざなふ
- ⑩ 三人の子を持つ女性トヨタマヒメ神だったのか母だったのか
- ⑪ 酸ゴボウをうまいと食し己がためレシピを写す三十路の男
- ⑫ 豪雨あらしの夜防災グッズのカップメン期限切れなりチンと湯湧かす